

地域交流拠点の場の営みと形態に関する研究

コミュニティカフェを対象として

A study on the act and form of regional communication node

A case study of Community cafe

○能勢摩耶¹, 八藤後 猛², 中田 弾³

*Maya Nose¹, Takeshi Yatogo², Dan Nakada³

In recent years, Japanese has various problems, such as Child abuse and dying alone. One of the causes of those problems is dilution of a community. Moreover, those who need a relation with people and a local community according to Great East Japan Earthquake are increasing in number. Community cafe is one of the means to solve a problem of dilution of a community. A community cafe solves the familiar problem of the area. Therefore, they are increasing in number. Thereupon, the purpose of this research is to clarify the act and form in a community cafe.

1. 研究の背景・目的

近年我が国では人口減少・少子高齢化、核家族化等の社会環境や生活様式の変化にともない児童虐待や高齢者の孤独死など様々な問題が顕在化している。それらの問題に共通する要因の一つとして人間関係・地域コミュニティの希薄化が考えられる。

その中で地域の人を繋げる役割を果たし、地域社会の身近な問題を解決する手段の一つとして「コミュニティカフェ（以下 CC）」がある。CC は長寿社会文化協会（WAC）が「地域のたまり場や居場所」と定義しており、全国各所で開設されている。その多くは子育て、教育、介護、あるいは地域情報の共用などその地域で考えられる問題を、その地域で暮らす人々が当事者となり解決する場となっている。

そこで本研究では、CC の建築の空間要素を把握するとともに、実際に CC を運営する上でどのような問題点を抱えているのか、また運営目的の違いによる空間要素の違いや、活動内容の違いなどを明らかにする。

2. CC の運営目的概要

「コミュニティカフェネットワーク・ガイドブック 2010」をもとに CC を運営目的別に大別する（表 4）。

3. 予備調査（訪問調査）

3-1. キッチンそら

表 1 キッチンそら外観・概要

外観		目的	障害者支援
	設置	NPO法人障害者の就労を進める会そら	
	開設	2011年6月	
	面積	26.44㎡	
	構造	RC造	
	運営	水曜定休	

障害者の就労の場として設置される。従業員に東京都の最低賃金を約束するという特徴がある。主な運営スタッフは店主、精神障害者、身体障害者、高齢者である。そのため人手が足りず、運営改善にもなかなか手が回らない状態であった。運営が軌道に乗らず 2013 年 9 月に閉店となった。

3-2. 大倉山ミエル

表 2 大倉山ミエル外観・概要

外観		目的	まちづくり
	設置	(社)横浜商店街総連合会 (社)横浜建設業協会	
	開設	2010年11月3日	
	面積	33.05㎡	
	構造	RC造	
	運営	日曜・祝日定休	

「ヨコハマ商建連携事業の大倉山プロジェクト」⁽¹⁾の一環として開設された。提供サービスは飲食だけでなくレンタルボックスやイベント・講座の開催と多岐に渡り、地域の活動団体の拠点としても利用される。

3-3. レストランサラ

表 3 レストランサラ外観・概要

外観		目的	高齢者支援
	設置	NPO法人高齢社会の食と職を考えるチャンブルーの会	
	開設	1999年2月1日	
	面積	不明	
	構造	木造	
	運営	日曜定休	

高齢化に伴うコミュニティの希薄化に対し食を通じて繋がりを作る事で解決しようと活動している。平成 12 年に NPO 法人化し、新たに子育て支援の「ひろばサラ」・介護保険事業所「デイサービスサラ」と地域のニーズに合わせて活動の幅を広げている。

1 : 日大理工・院（前）・建築

2 : 日大理工・教員・まち

3 : 日大理工・教員・建築

表 4 CC の運営目的概要

高齢者福祉	高齢者の居場所提供や健康に即した食事提供を行う。顔なじみになると見守りサービスにもなる。
子育て支援	乳児連れでも気兼ねなく集える居場所。子育て相談や一時保育等のサービスを提供する場合もある。
障害者支援	障害者が集える場であり、就労の場となることが多い。施設で作成した商品の販売を行う場合もある。
青少年支援	引きこもり・不登校などの若者の支援を行う。主に居場所支援や就労支援を目的とする場が多い。
スローフードオーガニック	地産地消や安全な食を提供する。食を通じて人々が交流する場を提供することを目的とする。
コミュニティスペース	地域の人々が気軽に集える居場所の支援を目的とする。
まちづくり	地域の活性化や地域振興を目的とする。地域の商店会などが設置する場合も多い。
事業支援	ワンディシェフや、社会的弱者の就労支援の場自分の店を持つためのステップアップの場にもなる。

4. 結果・考察

表 5 から以下の事が考えられる。

1) 建築的要素について

・開店時の店舗改装について

改装部位はカウンターの変更から全面改装まで幅広い。また 2 施設では助成金の利用、雑貨を地域の人からもらうなどの工夫をし、初期投資を抑えている。この 2 施設が継続した経営を行っていることから、初期投資を抑えることが店舗継続の要因の 1 つと考える。

・バリアフリーに対する意識

どの店舗も誰もが利用できるよう完全なバリアフリーにしたいという話を聞いた。しかし、実際には 2 店舗は完全な段差の解消はされていない。特にトイレの入り口の段差解消は資金面から優先順位も低く難しい傾向がある。またキッチンそらは店舗の狭さから車いす利用ができない。車いす利用者などを考慮すると一定の面積が必要と考える。

・座席の配置及び空間の利用

大倉山ミエル・レストランサラは 4 人掛け以上の大机と 2 人掛け用の機の併用が見られた。通常時は大机を組み合わせ、8 人掛け以上の大机としている。この大机の利用が、人が集まって会話するきっかけとなる。

また、CC は営利目的の飲食店と比較しイベント・講座の開催が多い事ため、座席の移動が頻繁である。そのため様々な場面に対応できるよう分節した机が適すると考える。

表 5 ヒアリング調査結果

	キッチンそら	大倉山ミエル	レストランサラ
改造費	700万円(自己負担)	約350万円(助成金)	470万円(自己負担・国民金融公庫)
改装部位	全面改装	カウンターの位置変更	全面改装
建物所有	賃貸	賃貸	賃貸
バリアフリー	店舗入り口、トイレ入り口に段差	段差なし	トイレ入り口の段差
座席数	13席	16席	16席
机数	7台	6台	4台
内装のこだわり	空を感じられる	自然な感じ	ナチュラルな感じ
イベント・講座の有無	イベント(不定期)有	イベント・講座有り	イベント(不定期)・講座有り
主の考える安定収入	無し	レンタルボックス/講座・イベントの開催	お弁当の配達(70食/日)
問題点	集客性	集客性	集客性

・内装のこだわり

3 店舗で共通して、自然・ナチュラルな雰囲気を好む傾向がわかった。これは、店主にとって「自然・ナチュラル」という雰囲気が「誰でもが入りやすい」に繋がるイメージであるためと考える。

2) 問題点

3 店舗共通して、「集客力の低さ」を課題点としている。これは CC 独特の手作り感・家庭的な外観や雰囲気が影響しているのではないかと考える。

またキッチンそらでは人手(協力者)の少なさも問題と考える。店主の負担を軽減し、普遍的な経営のためには協力者を増やすことが求められる。

3) イベント・講座の必要性

どの店舗でも少なからずイベント・講座が開催されている。更にイベント・講座の頻度が増えるほどランチ数も増え安定した収入源となることがわかった。

またイベント・講座を開催することで、参加者が店の活動に興味を持ち協力者(運営スタッフ)になるという過程も明らかとなった。

5. 今後の展開

今後は全国の CC に対してアンケート調査を実施し、CC の建築的要素や場の営みについてより詳しく分析を行う。また、集客性向上のために、入りやすい CC がどのような外観か明らかにする。さらに、実際に客から協力者となった人を対象にヒアリング調査を実施することで、より詳細な参加のプロセスを明らかにする。

【注】

(1)「ヨコハマ商建連携事業の大倉山プロジェクト」は(社)横浜建設業協会と(社)横浜市商店街総連合会が連携し、地域の活性化を目指す事業である。国土交通省の「建設業と地域の元気回復助成事業」に選ばれている。

【参考文献・引用文献】

- [1] 飯田詠子, 初見学: 都市におけるコミュニティ形成の場に関する研究-コミュニティカフェの運営形態を通して-, 日本建築学会 2008 年 9 月
- [2] 大分大学福祉科学研究センター: コミュニティカフェの実態に関する研究 2011 年 7 月
- [3] 公益社団法人長寿社会文化協会: 行くとホッとする, やさしい場所コミュニティカフェコミュニティカフェネットワーク・ガイドブック 2010, 2010 年